

船舶事故等調査報告書

平成24年4月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2011神第70号	
事故等種類	衝突（岸壁）	
発生日時	平成23年3月29日 16時30分ごろ（現地時間）	
発生場所	ブラジル連邦共和国ナタール港内 （概位 南緯5°46′ 西経35°12′）	
事故等調査の経過	平成23年5月29日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	漁船 第八十八 ^{たいわ} 太和丸、409トン	
船舶番号、船舶所有者等	132914、株式会社太和	
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	本船 船首部に凹損 岸壁 コンクリートに約1mの破損及びクレーン脚部に曲損	
事故等の経過	本船は、船長ほか23人（日本国籍7人、インドネシア共和国籍13人及びブラジル連邦共和国籍4人）が乗り組み、ナタール港の岸壁に左回頭して右舷着けの着岸作業中、平成23年3月29日16時30分ごろ船首部が岸壁及び陸上クレーンの脚部に衝突した。	
気象・海象	気象：風向 東、風力 2	
その他の事項	ナタール港は、川港で本事故当時3～4ノットの流速があった。 船長は、ナタール港への入港が2回目であった。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり 本船は、ナタール港の岸壁に着岸作業中、後進操作が遅れたことから、川の流りに圧流されて岸壁に衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、ナタール港の岸壁に着岸作業中、後進操作が遅れたため、川の流りに圧流されて岸壁に衝突したことにより発生したものと考えられる。	
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・入港前に港の状況を調査しておくこと。 ・川の流りによる船体への影響を調べ、操船方法を検討した上で着岸作業を行うこと。	